Ⅳ　社会　３年次の成果と課題

1　成果

(1)　学習課題を一人一人が「選択・決定」する複線型の展開

大きな「選択・決定」の場として，自分の予想や追究意欲に基づいた学習課題を「選択・決定」する活動を単元に意図的に位置付けたことにより，課題追究のために必要な資料を視点に沿って収集する姿や仲間との情報交換に必要感をもって臨む姿など主体的に調べたり考察したりする姿が見られたことが成果である。単元を通して個での学習課題の追究と集団での情報交換の往還がなされ，社会的事象の特色や意味について多角的に考えることにもつながった。

学習課題が学習問題を解決する上で妥当であるか集団で吟味した上で，複数の学習課題を設定した。その学習課題の中から子ども自身が「選択・決定」し，一人一人がそれぞれ調べたり考察したりする複線型の展開とした。このことにより，学習課題を追究するために必要な情報を収集したり，資料から読み取ったことを基にした自分なりの解釈を仲間に納得してもらおうと説明したりする姿を引き出すことができた。

(2)　視点が異なる仲間との情報交換と思考ツールの活用による考えの精緻化

学習課題が同じ仲間や異なる仲間との情報交換の場や着目した視点が同じ仲間や異なる仲間との情報交換の場など，様々な仲間との情報交換を単元の中に意図的に位置付けたことにより，社会的事象の相互のつながりを見いだす姿や複数の視点を関連付けて考える姿が見られたことが成果である。特に，学習課題や着目した視点が異なる仲間との情報交換では，収集した情報に違いがあるからこそ「仲間との対話」に必然性が生じ，考えを精緻化する姿が見られた。様々な仲間での情報交換は，社会的事象の特色や意味についての自分の考えと仲間の考えを関連付けたり総合したりして考える契機となり，有効であると考える。

また，クラゲチャートやエックスチャートなどの思考ツールを情報交換の際に活用するよう促したことにより，思考が可視化され，「仲間との対話」に伴う省察が活性化された。思考ツールの活用は，学びを整理するために有効であるだけではなく，情報交換の場の充実にもつながった。さらに，思考ツールの活用により省察が促され，考えやそれを支える根拠のつながりを明確にした情報交換を行う姿を引き出すことができた。

2　課題　**問題解決のための必要感のある省察につながる情報交換とするための手立て**

自らの学習状況を見つめ，学びをつないでいく力を高めることが課題である。

子ども自身が問題解決のために自らの学習状況を見つめ，目的をもって調べ直し，考えを深める姿を引き出すために，自分の学びと仲間の学びを比較し，必要感のある省察につながる情報交換とするための手立てを模索していく。

自分の学びと仲間の学びを比較することにより，自分なりの学習課題の設定や調べ方が適切であるのか，自分の考えやそれを支える根拠が妥当であるのかについて振り返り，これからの学びにつなげることができるようにするための手立てを探っていきたい。